

令和8年度第2回 青森県地方独立行政法人評価委員会 議事概要

日時：令和8年8月10日（月）

10時30分～11時45分

場所：オンライン

（青森県庁西棟5階580会議室）

1 開会

[事務局]

本日は、半数以上の委員が出席しているため、委員会成立となる。

2 議事

（1）公立大学法人青森県立保健大学の令和7年度業務実績評価について（資料1）

[高瀬委員長]

公立大学法人青森県立保健大学の令和7年度業務実績評価について審議をする。業務実績に関する事業年度評価は、当該事業年度における中期計画の実施状況の調査・分析を行い、その結果を考慮して業務実績全体について、総合的な評定を行うこととしており、当委員会が主体的に作成・決定するものである。

このため、先般、法人から提出された業務実績報告書に基づき、法人ヒアリングという形で調査・分析を行った。その後、委員の皆様から評価意見を事務局に提出いただいたところである。

本日は委員の皆様のご意見を基に、事務局において資料1の評価書案を作成した。この案について修正その他の意見交換を行い、最終的な評価書へとまとめていきたい。

まず、評価書案の作成にあたり、評価結果をどのような手順で取りまとめたのか、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

委員の皆様には、7月13日に開催した第1回評価委員会までに、業務実績報告書の小項目別に「S～C」の4段階で評価いただいた。小項目数は、令和7年度業務実績は年度計画の全87項目、第三期業務実績は中期計画の全41項目。

また、評価の段階の考え方としては、令和7年度年度業務実績評価の場合、「S：年度計画を上回って実施している」、「A：年度計画を十分に実施している」などとなっており、第三期中期目標期間業務実績評価の場合、「S：中期目標を上回って達成している」、「A：中期目標を十分に達成している」などとなっている。

各委員の小項目別の評価は、多数決の手法により評価委員会の評価結果としており、評価の結果、すべての項目でS又はAの評価となった。

次に、今回の第2回評価委員会に先立ち、第1回評価委員会でのヒアリングを踏まえ、業務実績報告書の大項目別に「5～1」の5段階で評価いただいた。

評価の段階の考え方としては、令和7年度業務実績評価の場合、「5：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある」、「4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある」などとなっており、第三期中期目標期間業務実績評価の場合、「5：中期目標の達成において特筆すべき状況にある」、「4：中期目標を達成している」などとなっている。

評価いただいた結果を、多数決の手法により評価書案の項目別評価結果とし、評価書案

の5ページ以降の右上に記載している。また、評価に際してコメントいただいた内容の主なものを評価理由等として記載している。なお、全体評価は記述式により行うこととしているため、段階別には記載していない。

[高瀬委員長]

資料1について審議を行う。進め方としては、項目別評価を審議したうえで、全体評価の審議を行う。

①【項目別評価】

(1)教育に関する目標を達成するための措置

～(7)その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

(異議なし)

②【全体評価】

[高瀬委員長]

全体評価として、P3、P4のとおりの評価結果としているが、評価結果についての意見や、追記が必要といった意見があればお願いしたい。

[伊藤委員]

全体評価の(1)総評の中に、項目別評価「(3)地域貢献及び国際交流に関する目標を達成するための措置」の中で、特に評価する事項①として記載されている、「地域連携・地域貢献について、学生・教職員による地域でのボランティア活動の推進や、大学を拠点とした地域住民・地域団体の活動支援の取組が進められている。」の内容を記載してはどうか。この内容は、全体評価の中でも触れるべき内容と考える。

[高瀬委員長]

非常に重要な観点かと思う。追記したいと思うがいかがか。

追記する箇所は③の前になると思う。その他の誤字脱字等の軽微な修正も含めて、具体的な記載については委員長一任とさせていただきたい。

(異議なし)

(2) 公立大学法人青森県立保健大学の第三期中期目標期間実績評価について（資料2）

[高瀬委員長]

続いて、資料2について審議する。進め方としては、先ほどと同様に、項目別評価を審議した上で、全体評価の審議を行う。

①【項目別評価】

(1)教育に関する目標を達成するための措置

[香取委員]

管理栄養士の国家試験合格率について、令和7年度だけ78.1%とその他と比較して低い数値となっている。何か理由があるのか。

[保健大学]

管理栄養士国家試験は、厚生労働省の専門職の国家試験の中でも合格率がかなり低い部類になる。新卒で約80%、既卒を含めると約50%の合格率となっている。出題も工夫が

凝らされ、いわゆる試験対策の勉強だけでは合格が難しいものとなっている。さらに令和7年度からはより難しい問題となった状況がある。全国の新卒の合格率は80%を少し下回るくらいであったが、それより少し悪かったということは、本学の栄養学科教員の指導は十分ではなかったところはあるが、令和5、6年度までは、全国の新卒の平均が8割程度の中で、かなり頑張って9割となっていたもの。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

～(7) その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

(異議なし)

②【全体評価】

[伊藤委員]

⑤の内容について、他の項目と見比べた場合に、項目別評価結果が「5」となっていることが分かるような文言としてはどうか。「～受審している」「～運用されている」といった事実関係のみが記載されているが、「大学評価基準を満たしている」、「基準に適合した教育を行っている」ことが高く評価できるものであることから、P10の項目別評価(6)の①、②の記載を凝縮したような表現を入れ込んだほうがよい。教育水準が高いこと、教員の能力開発にも積極的に取り組んでいることを示した方が分かりやすい。

また、全体評価の中にリスクマネジメントに関する項目がない。年度評価には危機管理、情報管理、ハラスメント防止を記載しているところ。P11の項目別評価(7)において、危機管理、情報管理、人権啓発等のハラスメント防止について評価事項として挙げている。中期目標期間の評価だからこそ、各種の施策だけでなく、これらのリスクマネジメントにも取り組んでいることを記載して評価してあげるべき。表現としては、リスクマネジメント等の体制整備について継続して取り組んでいるだけでなく、中期目標期間中、毎年度見直ししながら取り組んできたことから、「不断の見直しが行われている」などとしてはどうか。

[高瀬委員長]

1点目について、伊藤委員の意見のとおり、何かをやっているというだけではなく、アウトプット・アウトカムの部分をどう評価するのかという観点での記載が必要と思う。2点目について、着実に取り組んでいること、日々改善に取り組んでいることを評価する記載があってしかるべきと思ったところ。

伊藤委員の意見を受け、修正を加えることとしたいが、いかがか。

(異議なし)

[香取委員]

③のなお書きについて。「第四期中期目標期間においてその成果を数値等で示し、」とあるが、大学の性質上、数値だけで測れないが、評価できる部分もある。その余地を残すため、例えば「エビデンスを示すとともに分析し」といった表現に修正するなど、定量的な成果だけでなく、定性的な成果も示せるようにしてはどうか。地域定着の取組であれば、各種取組の中で、どのような取組が定着につながったか、など、次回の実績報告書に反映できるようにしたほうがよいと考える。

[高瀬委員長]

確かに数字だけではない。定性的な指標も大学側で評価の材料を示すことができると思う。エビデンスと分析という視点は非常に重要な意見と思う。

いただいた意見を踏まえ事務局で修正案を作成する。修正内容については、委員長一任とさせていただきたいがいかがか。

(異議なし)

[舘田委員]

単年度の評価と第三期中期目標期間の評価の関係について。項目別評価（６）について、第三基中期目標期間の評価は「５」としているが、単年度の評価では「４」となっている。この点について、単年度分の評価は「４」だが、第三期中期目標期間全体としては「５」と評価することは問題ないか。

[事務局]

問題はない。

[高瀬委員長]

以上で本日の審議を終了する。